

2・2 生活化学部

平成 23 年度は、行政依頼検査として食品中の残留農薬検査、食品、食品添加物の規格基準検査、畜水産食品中の動物用医薬品残留検査及び家庭用品の有害物質検査のほか、熊本県食の安全安心推進条例に基づく県産農林水産物中の農薬・動物用医薬品の出荷前残留検査を実施した。

その他、農林水産部からの依頼による松くい虫防除に使用する薬剤の残留調査を実施した。

主な試験検査及び調査研究の概要は次のとおりである。なお、業務実績表を別表に示す。

2・2・1 試験検査

1) 食品・食品添加物等の規格基準検査

食品中の添加物検査として、保存料、甘味料、酸化防止剤、着色料、漂白剤等の検査を実施した。使用基準値超過及び指定外添加物は検出されなかったが、菓子の着色料及びつくだ煮の甘味料について表示違反があった。

食品成分規格検査では、清涼飲料水、玄米等について実施したが、基準値を超えたものはなかった。

2) 魚介類の水銀検査

県内で漁獲され、県内に流通している魚介類の総水銀検査を実施してきたが、平成 13 年度からは総水銀検査を保健所試験検査課で行い、当所では暫定的規制値を超える検体について有機水銀検査を実施することにしているが、平成 23 年度は該当する検査はなかった。

3) 畜水産食品中の動物用医薬品残留検査

生産段階で使用される動物用医薬品及び飼料添加物等が、食肉・魚介類等の畜水産食品中に残留している実態を把握するため、食肉、養殖魚介類、牛乳及び卵について、動物用医薬品の検査を実施した。食品衛生法の基準値を超えるものはなかった。

4) 食品中の残留農薬検査

輸入食品を含む野菜、果実、茶等の農作物について、残留農薬試験を実施した。ピーマン 1 検体から基準値を超える農薬フエントエートを検出した。

5) 特定アレルギー物質検査

食品中の特定アレルギー物質（小麦、乳、卵、そば、落花生、及びえび、かに）の表示確認試験を実施した。表示違反はなかった。

6) 家庭用品中有害物質含有検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、試買した繊維製品中のホルムアルデヒド及びディルドリン、家

庭用洗剤の水酸化ナトリウム・水酸化カリウム等について検査を実施したが、基準値を超えるものはなかった。

7) 医薬品等に関する試験検査

平成 23 年度は、該当する検査はなかった。

8) 器具、容器包装の規格基準検査

食品の調理、製造加工、運搬及び保存などに用いられる器具及び容器包装については、食品衛生法によってその材質毎に規格基準が定められている。平成 23 年度は陶磁器、ガラス容器、合成樹脂製品について防かび剤、二酸化硫黄、蛍光増白剤、重金属などの試験を実施した結果、限度値を超えるものはなかった。

9) おもちゃの規格基準検査

おもちゃについては、食品衛生法によってその材質毎に規格基準が定められている。平成 23 年度は、着色料、重金属の試験を実施した結果、指定外着色料は不検出であり、重金属の限度値を超えるものもなかった。

10) 食品苦情に伴う理化学的原因調査

平成 23 年度は、該当する検査はなかった。

11) 松くい虫特別防除薬剤残留検査

球磨郡あさぎり町において、平成 23 年 5 月下旬から 6 月中旬に実施された松食い虫防除の影響調査のため、流域の河川水と水源における使用薬剤の残留試験を実施した。

12) GLP に関する精度管理試験

食品衛生外部精度管理調査に参加した。
調査項目は、重金属（Cd）、食品添加物（ソルビン酸）、残留農薬（マラチオン、クロルピリホス、フルトラニル）及び残留動物用医薬品（スルファジミジン）であり、結果は全て良好であった。

13) フグ毒試験

フグ中毒が疑われる食中毒事件に伴い、原因物質究明のため、LC/MS/MS を用い、患者の血清及び吐物についてフグ毒の検査を実施した。その結果 血清から 2.70ng/g 吐物から 218.10ng/g のテトロドトキシンが検出された。

14) 熊本県食の安全安心推進条例に基づく出荷前農薬等 残留検査

県産の主要な農林水産物について残留農薬、動物用医薬品の出荷前検査を実施した。食品衛生法の基準値を超えるものはなかった。

15) 危機管理検査

平成 23 年度は、13) に記載したフグ中毒事件が 1 件発生し、原因物質究明のための検査を実施した。

16) 一般依頼試験

平成 23 年度は、該当する検査はなかった。

2・2・2 調査研究

1) 健康危機に対応した加工食品中農薬の迅速分析法に関する研究

健康危機事故例が多く、毒性の強い有機リン系、カーバメイト系及びアミノ酸系農薬を分析対象として、お茶、スポーツ飲料及び牛乳等の飲料について迅速分析法を開発した。

2) 水産物中ヒスタミンの簡易迅速分析法の開発

化学物質性食中毒における原因物質として事例の多い水産物中のヒスタミンについて、親水性相互作用クロマトグラフィー (HILIC) と LC/MS/MS を組み合わせた簡易迅速分析法を開発した。

3) テトロドトキシン及びその類縁体を含めた機器分析に関する研究

TTX 類縁体の TTX に対する比毒力を求め、TTX とその類縁体を同時に機器分析で定量することで、公定法 (マウス試験法) と同等の結果を迅速に得るための検討を行った。

H23生活化学部業務実績表

分 類	事 業 名	業 務	平成23年度		平成22年度	
			検体数	延項目数	検体数	延項目数
行政検査	(1) 食品・添加物等の規格基準検査	(イ) 清涼飲料水成分規格	24	96	26	104
		(ロ) 人工甘味料	67	106	82	126
		(ハ) 合成着色料	52	828	53	852
		(ニ) 合成保存料	66	109	55	73
		(ホ) 発色剤 亜硝酸ナトリウム	0	0	4	4
		(ヘ) 漂白剤 二酸化硫黄等	2	2	0	0
		(ト) プロピレングリコール	2	2	1	1
		(チ) 米（玄米）中Cd	6	6	6	6
		(リ) 酸化防止剤	33	198	22	127
		(ヌ) 防かび剤	4	16	4	16
		(ル) メラミン	0	0	0	0
		小 計	256	1,363	253	1,309
	(2) 魚介類の水銀検査	0	0	0	0	
	(3) 畜水産食品中の動物用医薬品残留検査	71	8,408	77	8991	
	(4) 食品中の残留農薬検査	(イ) 野菜,果実,米穀,茶	122	54,790	125	54,526
		(ロ) 輸入・国産食肉	0	0	0	0
		(ハ) 牛乳	0	0	0	0
		小 計	122	54,790	125	54,526
	(5) 特定アレルギー物質検査	46	66	41	41	
	(6) 家庭用品中有 害物質含有 検査	(イ) 繊維製品	24	50	31	57
		(ロ) 家庭用洗浄剤等	5	10	3	6
		小 計	29	60	34	63
	(7) 医薬品等に関する試験検査	健康食品	0	0	0	0
	(8) 器具・容器包装規格基準検査	材質及び溶出試験	20	60	20	56
	(9) おもちゃの規格基準検査	10	54	10	50	
	(10) 食品苦情に伴う理化学的原因調査	0	0	0	0	
	(11) 松くい虫特別防除薬剤残留検査	14	14	14	14	
	(12) GLPに関する 精度管理試験	合成保存料,重金属, 残留農薬,合成抗菌剤	4	6	4	6
	(13) フグ毒試験	テトロドトキシン	4	4	0	0
	(14) 熊本県食の安全安心推進条例に基づく出荷前農薬等検査	(イ) 野菜,果実,穀類,茶	63	15,204	61	14,752
		(ロ) 畜水産物	38	3,612	38	3,602
小 計		101	18,816	99	18,354	
(15)危機管理検査	4	4	4	468		
合 計	681	83,645	681	83,878		
一般依頼試験	0	0	8	8		
総 計	681	83,645	689	83,886		